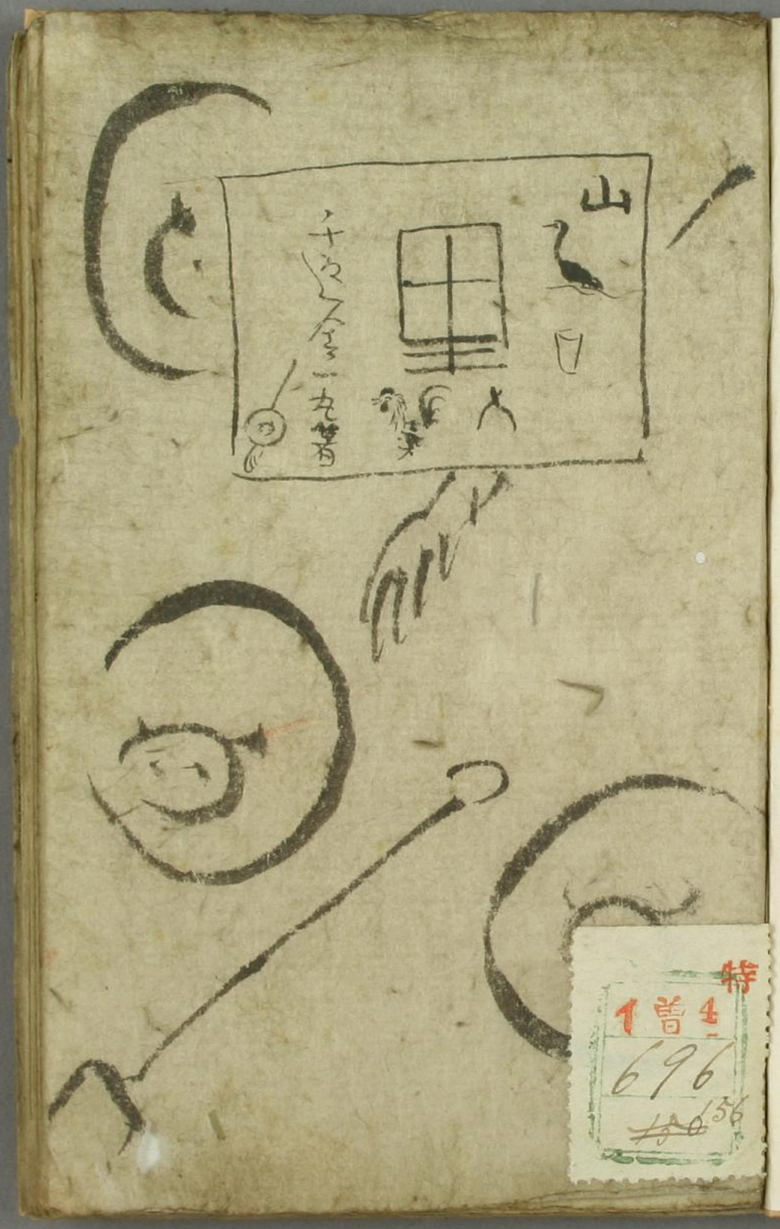
696
156



特
1 昔 4
696
~~130~~ 136

696
156

名古屋

千偏舎一九著

今諸泉寺へ参詣いたしたんとおもわれ、往古より大岩根の
先へ出いたしたる水車の音を聞いたしたるに音高く
ア、水車一切りたてらるゝあるたんらくにて八つ
トまわり水車の音と又
元へもどりて
あたらしくイヤさあれ、あれのしてゆ引ぬきとゝ

ぶ各〻の世ハ油をうりとあんぢゝだとちまやりそんし迷
みつる家をしくト此所と高ゐんとゝふれむこふ百性
きゝる百性又ハよむこふ千ワトおのこ
寺建中寺板へハとつりまもる八ハイとりやあなてき
るさんつ屋をとりつハどゝぐりまする板州でちまする
百人ハとんぶりをうりいるるりと先へりて少まま
ト百姓共へりなりきる京まもるよりつまて
ハ尾張の山ハそゝぐりの天守の鯱むく
金でのアり鯱のるサが三十分をうもあるきる川
ハ京おの高サが一里半ト京ゐんるアノ
そはの板木も高サ三十町ともうまるサアノ
板の木てうつまをを木曽の機とりハアノ木てこ
らへうの高ける今ハアノ板の木をきるのるぬて機も
ゝぬける又りやあんるきれらるらおまゝ基
京れてもハ周門とまの堀の下よまてあるて
ゝまよ三十町とあるのてハ延イやアノ板の木ハアノアそこよ
ゝる板の木のゝをゝぶりるー都の人ゝをつアて京ちも

てくくいつてきやくいの中く石ゑんに所ヤ（きく）くろうしくな
えん（ゑん）くるわくまぢといふ延ゑうちの心毎てるえんゑよあつて
（ニ天じくまてゆるうサれしらゆくくくうてらうゑ）
所ふうう一ちゆ毋ゑ（ゑ）くとゆ越あるゑくるうう
ゆゆ先長崎ようてくくの内ゑ千里ゑ氏内ゑよゑ
しきといふ者の大流川ハ流りとうちらくてり
八氏所ゑ孫ゑら屋ゑの者てのゑ氏ゑら屋のゑ七ガ
十六里半先の所ゑ十二丁相ハ一氏ゑら屋の中

ゑもじ八百の町ゑ（こ）者氏町ゑ住ゑあいの
浪人物ゑう毎氏町ゑ月ゑ四日ゑ市者て人ゑ
二把三文物ゑ屋一ゑハ文米ハ一年ゑ三度と
ゑきゑ人ゑきゑ毋ゑきゑ石八年ヤ少いゑる
買市といふハ氏所ヤ毎氏横町ゑ遊屋あつて
かるゑい猿の芸ゑけん上ゑうあまて又ゑうくゑ
いやゑいわ見ゑきゑ見ゑうゑ五義人相見ゑ者
きゑて四日市て安ん和ハゆゑせん一夜三十文

鶴ハ一たん考ヘ五下鳧の丈一尺二寸ぐらい
一尺八寸より子ハ百より又多ハ少く成ル一羽
二寸八分ぐらい一羽三寸八分もたん一尺五寸又
鶴より一尺四寸二寸ぐらいとかくらいなるあり
やはり日本の鶴とよせ[illegible]ちがあり
なる時プチ〳〵と音ハ[illegible]あちの
人ハ[illegible]ハ音ハ日本ハあるところ
五音ハ[illegible]

江戸のいかなる世幸ニ[illegible]
ハ[illegible]とおもうんるハとりてまゝあらうて
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
あちてハ[illegible]の紙入ハ[illegible]
[illegible]紙ハ[illegible]
[illegible]紙ハ[illegible]
[illegible]

ちるしいうろちや龍宮へいつておまへしは
〽りりやとみしそのれ
〽いくみてもせつりかりてナ
そうみかんめえると龍宮やそりやしいそれも
ましかしてよ今を千両ものりもわりてなに
くちぢんにとりおおサマア出るなれお龍宮の門
へりと皆あつまる男をのせてわる人々むくて出る
一ア おふえ ソイ龍宮まなせと中へたのしみた所が何
からくらんおさいのせえこそ一盃やらしてナ

そとさ十日もへつらもしつして居てなあと
姫が多しよみれてナるんともきものしとそるね
なうねとりつてナあらはまことまうふんてナたこで
ならがふんなくたにさハアおと姫があのふくみよ事
いれてなるめへいち一夜サ船がみとなみてしろに
一夜サ船てうちあかれぬといふ間よ子ゟ出る
見るよりもこゆりこみとゝて廿サそこてなる
時ハ今でおめらにつらいて居にさいく時よ

こうして十さいで元りくこにおあくてそ
ぞのくをあるいつけてるものくあって
きたい山ヤート行るくを矢田川の土場を越えて又八つくとと格のくくあと（ヤアリ）
らりやこまるくしくうり中へ行くもらってみるアムく
焼ガ又紙ハ三百三十たこのとときのこ一まん
きりてしるいろんのくくわくる幾ハはりって
おるおらるるかくまた三枝でハ色三毎ふいこ枝
きりてみるハートりくるくくおるくくあって

あるく酒ハおまんあ部アイ酒といちゃ地く
くてもいはやすハの部くそハ角ふくつれぶ時ふ
らくハ角ハ角ふくと式三人のあのちくで内
ハもきまんの部角紙三人まれハめん者のこ
ら角全あるくるあ部くくたり百性がりくのあ
又アハつかのとるくぶ部アとをもろまくこ角ち人角
又角人と部ゆ紙先ここ部ありてめくをとろくあ
すハらくこしようとり。そこでアハつかをてめくを

すべ、ぶうとうとゝ又あしくゝアをすつるゆいやら
てをくを延あつとまきつる仏コトトうの人
ゆきやあつくゝ面ゝあくゝアこてをたくゝと
百性のくらくゝ去こ又
又八そをくゝよりて
又それおすれ十アしめと小聲で
ゆトよりつ孫それおあ
れくつ去えあつ今でおあ江
りしこそくゝ去アりくくあくゝぐ鼻す孫を
ゆくゝ赤申のゑゝ目の玉ゝ赤れそゆるアイクくゝ百性ゆゝ

ゆくゝ仏のそはで歩ゆゝ又りしおすそ十モット小工
でゆしおす十ツコイまくゝ百性ゆゝくゝ之りしおすく
とくゝけつゝとくゝの之十ゝゝわくゝいくゆくゝ
又りしあすトのりとくゝこくゝ先きゝゝ仏のゝと三百ゆりてゆくゝくゝそ
十四ゆ　そゝハ仏でゆゝゑゝ多ゆくゝハッピヨくゝ十イリ
十五ゆ……りつ聲を半を百性ゆゝくゝゆくゝゆくゝ百性と
ゑゝハくゝくゝつゝをくゝゆくゝれくゝをゆくゝ赤
ゝらはつゝを仏くゝそゆくゝそくゝゆくゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

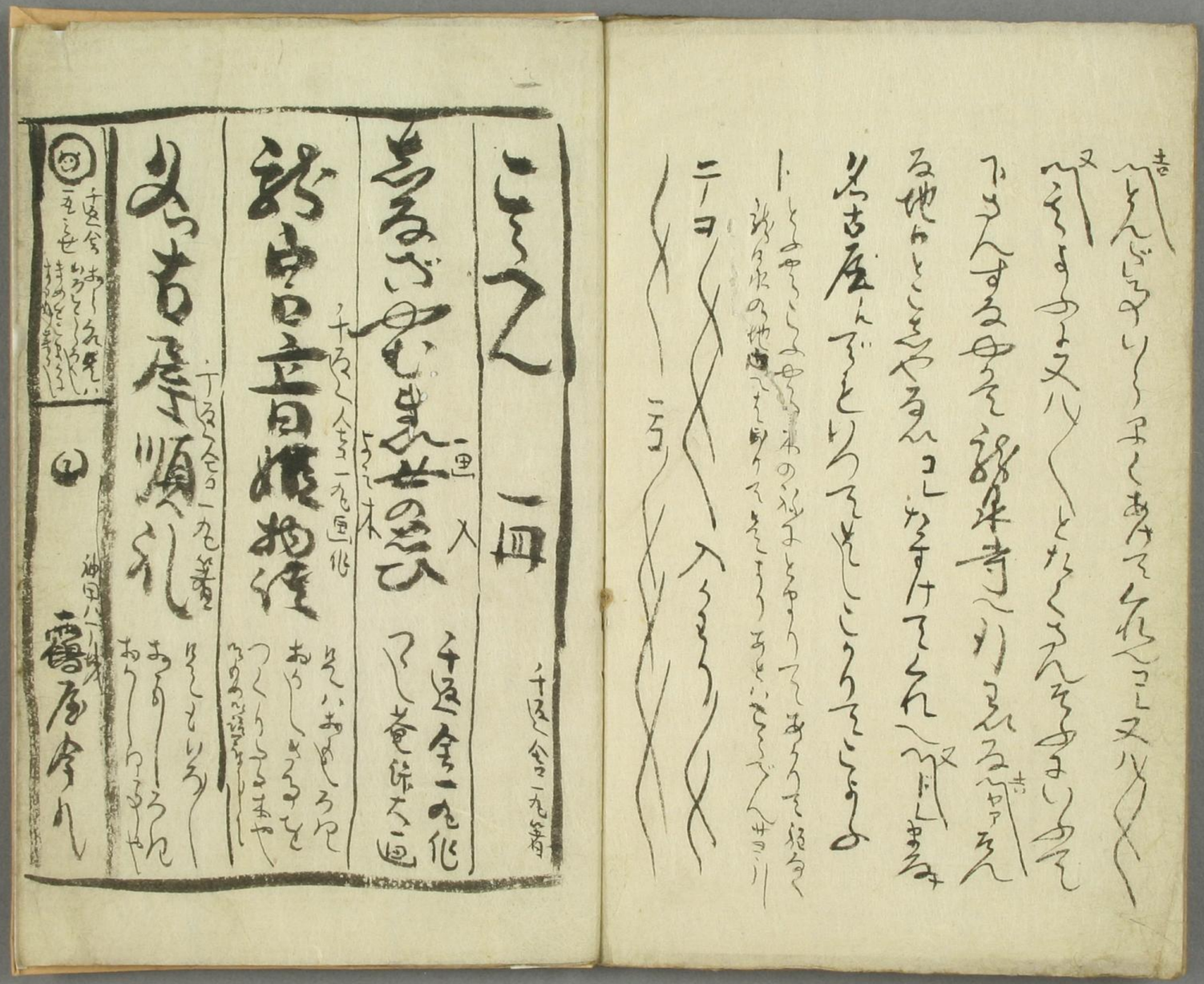
[illegible]

[illegible]

[illegible]

ビヨくとつぎをかけてりきまんハのだ
ちびつのあをさりるがくのきたるし〽コレおまへやはりよ天気
かよう御外所へおまゑずやつるまつれてりかてそれ
それコレおまへそしておのしらずハ出てとるずがら
ゐろうぎりしてきつしるすれよりあたりト
いゝえれて書をあれへんどよろし
ゆへなどア〽コレおまへトいふとしるよう
〽ハイるすんじいトあとらりよなどア婆もおつぎ
ぞうへぬ目をひくきえて娘〽コレ　コらしら
まぞりて居る人ハ誰じいト
いゝれて吉をうちをきる
みるゑをまか谷おらて
吉〽ヤア〳〵コレ又八たすけゐく
又〽ハ……おまへハ

せんどう百人もあるまじやしかせんへせんまれ
おまへのおの谷おそれなかしるまでのつやサ吉〽ゐる爺いをと
すとあけてくれにてのみいかはおれる事へつてゐれ
あしこてをとりつてきてくれ廻又〽ハ……ちしこめ
てきるもらひかおれてわかやあらうれまいコレ
吉〽ゑんゐうおまへも一へんあるてくれ又〽ゐる爺いく
とんらいゐりしく廻吉〽アゝつてるんおくあけてくれ廻
又〽おくそこてきま娘へもうれ〽ぬせいるくてハ


二十四
千足金一九作
千足金一九著
二十四
二十五
二十六